

35 言語聴覚士を志す学生に対する臨床実習事前指導の効果について

学院 言語聴覚学科 阿部晶子, 山下真司, 北義子, 下嶋哲也

1. はじめに

言語聴覚士の養成において、臨床実習はカリキュラムの重要な位置を占める。学院・言語聴覚学科では、臨床実習がより充実したものとなるよう事前指導を導入している。そのひとつが、4つの障害領域にわたる筆記試験とそのフィードバックである。このような事前指導について、昨年度の学生にアンケートを行ったところ、大多数は有意義と感じていることがうかがえた。ただし、この結果は事前指導で学んだことが、実際に臨床実習で生かされていることまでを示すものではない。そこで、今年度は、事前指導の効果を明らかにすることを試みたので報告したい。

2. 方法

1) 対象：2年生29名を対象とした。学生は6～7月にかけて臨床実習を行った。

2) 事前指導：1年次の学年末に、教官4名が専門領域に関する筆記試験を実施し、結果のフィードバックを個別に行った。試験の狙いは、「知識が不十分な箇所を明らかにする」、「知識を整理する機会を作る」、「知識を活用する機会を作る」、「頭を使うトレーニングをする」であった。

3) アンケート：臨床実習の前後に行った。実習前のアンケートでは、事前指導の意義に関する10項目について回答を求めた。実習後のアンケートでは、臨床実習でどのような能力が向上したか、それらの能力向上に事前指導が役立ったかの16項目について回答を求めるとともに、事前指導の意義に関する10項目について再度たずねた。

3. 結果

1) 実習前アンケート：事前指導の意義に関する10項目のうち、教官が試験の狙いとした内容について意義があったとする回答は82.8%から100%で、非常に高い値であった。

2) 実習後アンケート：臨床実習において、事前指導は「経験を通じて教科書や参考書の理解を深める」(77.8%)、「言語聴覚士の仕事を理解する」(75.9%)、「検査法や訓練技法に関する知識を増す」(75.0%)、「様々な講義で得た知識をより深く関連付ける」(70.4%)上で役に立ったとする回答が多かった。事前指導の意義については、実習前とほぼ同様であったが、「知識を統合させる機会になった」が79.3% (実習前) から93.1% (実習後) となり、有意義と考える学生が増えていた。

4. 考察

学生が、教官の意図を理解し、事前指導を受けていることが明らかになった。また、アンケートの結果から、多くの学生が、事前指導で学んだことによって、「経験を通じて教科書や講義の理解を深めることが促された」と考えていることが推測された。これは、事前指導での具体的な課題を通じて、本に書かれていることや講義で教わったことを表面的でなく深く理解する、という手続きを学んだことを意味すると思われた。

5. 今後の課題

臨床実習でどのような能力が向上したかにおいて、最も回答が少なかった項目は、「自主的に行動する力」であった。このような側面の指導方法は今後の課題である。